

愛知県震度観測・調査報告書－第28報－の概要

1 調査の概要と目的

この調査は、地震動の伝わり方や地域特性を明らかにするため、県内全市町村に設置している計測震度計による震度情報ネットワークの震度観測データ等を活用して、平成20年1月～12月に発生した地震と震度に関する調査結果をまとめたものである。防災対策の基礎資料、県民の地震に対する理解を深めるために活用されることを目的としている。昭和56年より1冊／年で発行しており、本書で28冊目となる。また、トピックスとして、最近の地震研究などに関する話題を掲載した。

2 愛知県震度観測・調査報告書－第28報－の概要

(1) トピックス

ア 岩手・宮城内陸地震と活断層の地震

昨年6月14日に発生した岩手・宮城内陸地震は、断層の西側が隆起する逆断層タイプの地震であった。山脈と平野との境目には概して活断層が走っており、逆断層タイプの地震が繰り返し発生することで、現在の山脈が形成されている。ここでは、東北地方や愛知県周辺の活断層、坂に見る身近な活断層を例に、地形と活断層との関係を紹介している。

イ 地震の揺れを予測する 全国を概観した強震動予測地図

地震の被害を発生させる「ゆれ」は、地震の規模と断層面からの距離、地盤の揺れやすさの3つの条件で決まる。自分の住んでいる場所が、近い将来、どの程度のゆれに見舞われる可能性があるかが分かれば効果的な地震対策を取ることが出来る。ここでは、将来の地震のゆれの強さと発生確率を表現した「強震動予測地図」を紹介している。

ウ シミュレーションとモニタリングを統合した地殻活動予測システムの構築に向けて

時々刻々変化する地殻応力状態を推定するためには、プレート沈み込み帯の三次元地殻活動シミュレーション・システムに、多様な観測・データ解析を通じた地殻活動モニタリングによる情報を取り込む必要がある。ここでは、駿河－南海トラフにおける大地震発生等の多様な地殻活動の予測研究に応用してゆくための基本的な考え方を解説している。

(2) 震度観測資料

ア 愛知県における地震

平成20年に、県内のいずれかの市町村で、震度1以上が観測された地震の発生は24回であった。なお、震度4以上が観測された地震は発生していない。

イ 国内の主要な地震

平成20年に、国内で、被害を伴った地震の発生は8回であり、死者を伴う地震の発生は2回であった。

ウ 世界の地震

平成20年に、世界で、人的被害を伴った地震の発生は53回であり、死者10名以上の地震の発生は6回であった。

3 調査研究成果の活用

調査報告書は、防災会議に報告するとともに、防災関係機関、市町村に配付し、地震防災対策の基礎資料として活用する。

また、県民が自由に閲覧できるように公立図書館、県民生活プラザ等に配付し、地震についての理解を深めてもらう。